

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

令和4年の我が国の漁業・養殖業の生産量*は391万6,956 tで、前年に比べ24万855 t (5.8%) 減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は295万1,001 tで、前年に比べ22万8,412 t (7.2%) 減少した。

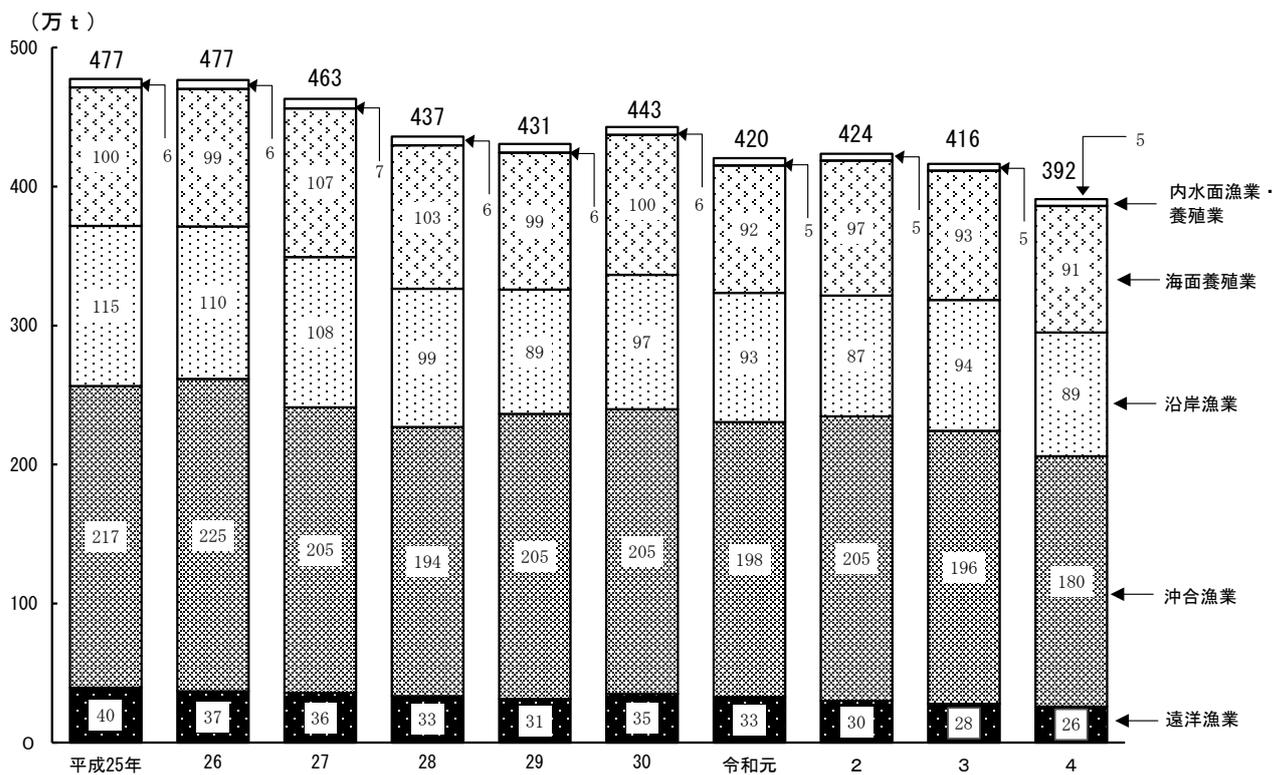
これを部門別にみると、遠洋漁業は26万1,738 tで、前年に比べ1万7,028 t (6.1%) 減少、沖合漁業は180万3,685 tで、前年に比べ15万9,580 t (8.1%) 減少、沿岸漁業は88万5,579 tで、前年に比べ5万1,804 t (5.5%) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は91万1,839 tで、前年に比べ1万4,802 t (1.6%) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は5万4,115 tで、前年に比べ2,358 t (4.6%) 増加した。

※ 生産量は漁獲量と収穫量の合計値である。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

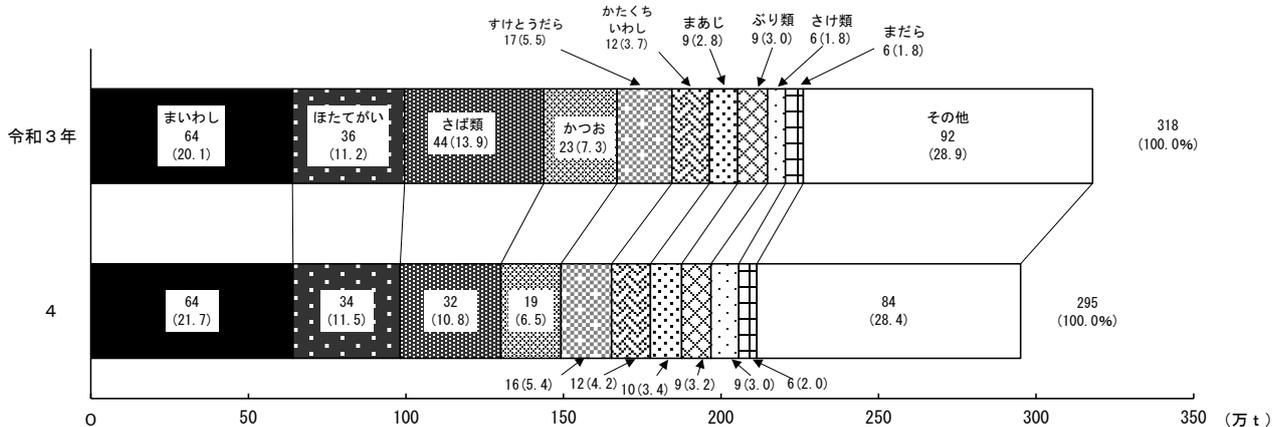
海面漁業の漁獲量は295万1,001 t で、前年に比べ22万8,412 t (7.2%) 減少した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、まいわし、かたくちいわし、まあじ、さけ類、まだらであり、減少した主な魚種は、ほたてがい、さば類、かつお、すけとうだら、ぶり類であった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、まいわしが21.7%、ほたてがい11.5%、さば類が10.8%、かつおが6.5%、すけとうだらが5.4%、かたくちいわしが4.2%、まあじが3.4%、ぶり類が3.2%、さけ類が3.0%、まだらが2.0%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) まいわし

漁獲量は64万1,797 t で、前年に比べ1,870 t (0.3%) 増加した。

(2) ほたてがい

漁獲量は34万40 t で、前年に比べ1万5,910 t (4.5%) 減少した。

(3) さば類

漁獲量は31万9,744 t で、前年に比べ12万2,093 t (27.6%) 減少した。
これは、茨城県、静岡県等で減少したためである。

(4) かつお

漁獲量は19万659 t で、前年に比べ4万1,611 t (17.9%) 減少した。
これは、静岡県、三重県等で減少したためである。

(5) すけとうだら

漁獲量は16万428 t で、前年に比べて1万4,097 t (8.1%) 減少した。
これは、北海道で減少したためである。

(6) かたくちいわし

漁獲量は12万3,241 t で、前年に比べ4,318 t (3.6%) 増加した。

- (7) まあじ
漁獲量は9万9,295 tで、前年に比べ9,680 t (10.8%) 増加した。
これは、長崎県、島根県等で増加したためである。
- (8) ぶり類
漁獲量は9万3,112 tで、前年に比べ1,496 t (1.6%) 減少した。
- (9) さけ類
漁獲量は8万7,905 tで、前年に比べ3万1,247 t (55.2%) 増加した。
これは、北海道、秋田県等で増加したためである。
- (10) まだら
漁獲量は5万7,715 tで、前年に比べ765 t (1.3%) 増加した。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(令和4年における上位1位～5位)

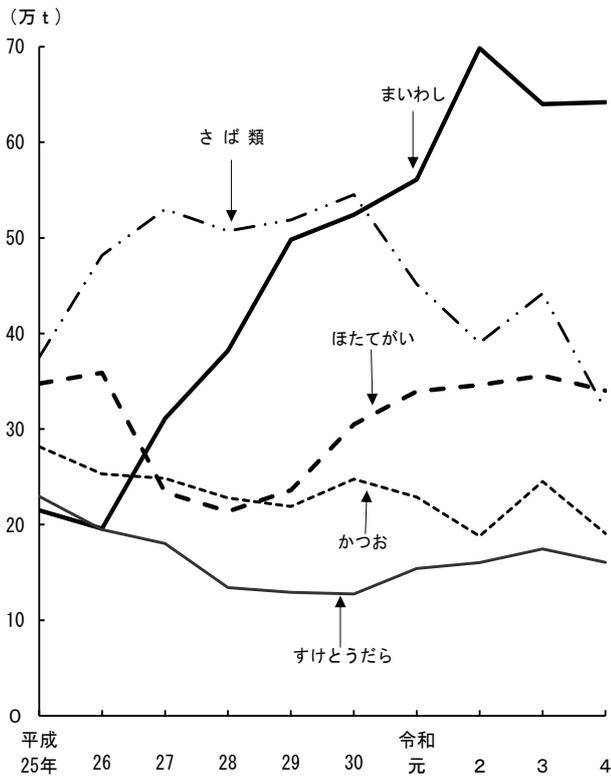
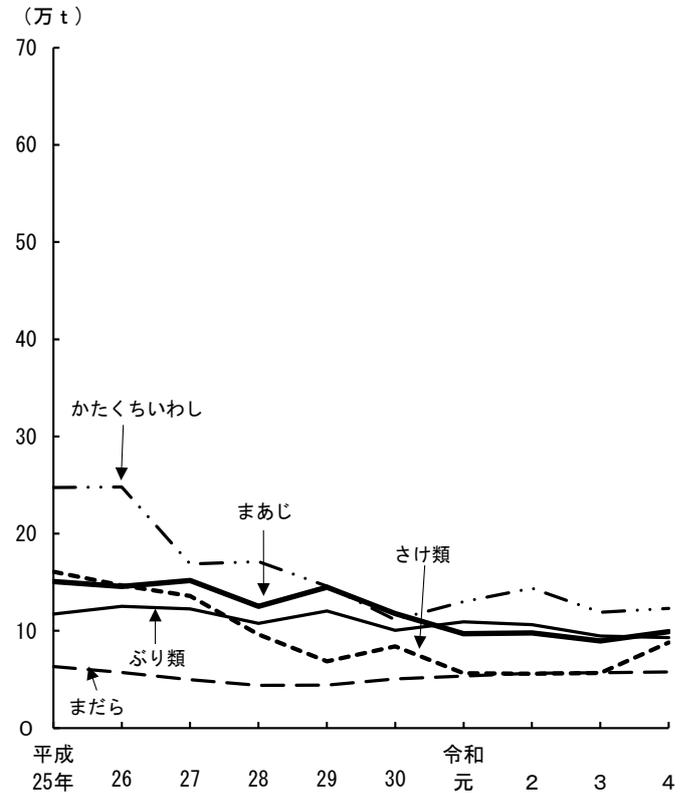


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(同左) 6位～10位)



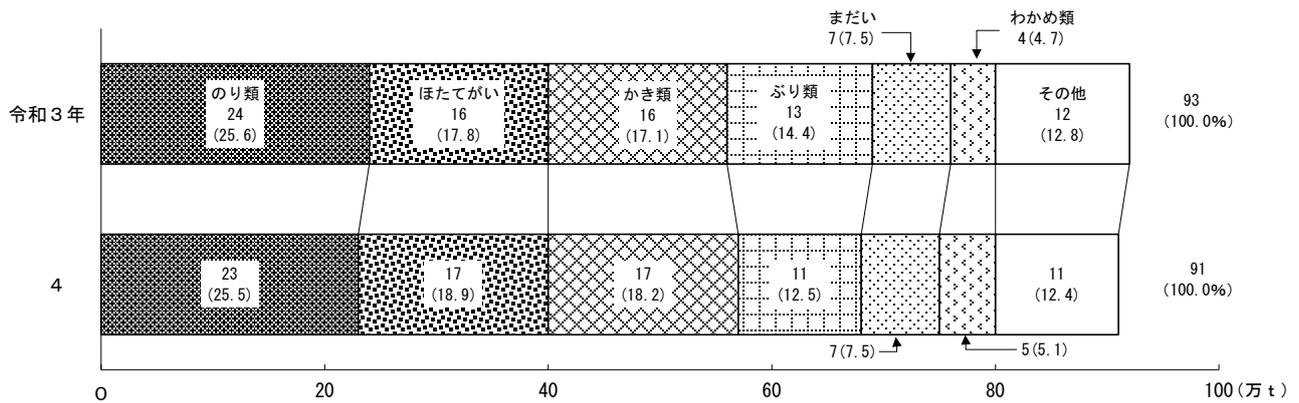
3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は91万1,839 tで、前年に比べ1万4,802 t（1.6%）減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがいがい、かき類、わかめ類であり、減少した主な魚種はのり類、ぶり類、まだいであった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が25.5%、ほたてがいが18.9%、かき類が18.2%、ぶり類が12.5%、まだいが7.5%、わかめ類が5.1%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は23万7,428 tで、前年に比べ1万8,771 t（7.3%）減少した。

ア ぶり類

収穫量は11万3,863 tで、前年に比べ1万9,828 t（14.8%）減少した。

これは、鹿児島県、大分県等で減少したためである。

イ まだい

収穫量は6万8,088 tで、前年に比べ1,353 t（1.9%）減少した。

ウ ぎんざけ

収穫量は2万220 tで、前年に比べ1,738 t（9.4%）増加した。

これは、宮城県で増加したためである。

(2) 貝類

収穫量は33万8,126 tで、前年に比べ1万4,381 t（4.4%）増加した。

ア ほたてがいがい

収穫量は17万2,078 tで、前年に比べ7,567 t（4.6%）増加した。

イ かき類

収穫量は16万5,590 tで、前年に比べ6,801 t（4.3%）増加した。

図6 海面養殖業主要魚種別収穫量の推移（魚類）

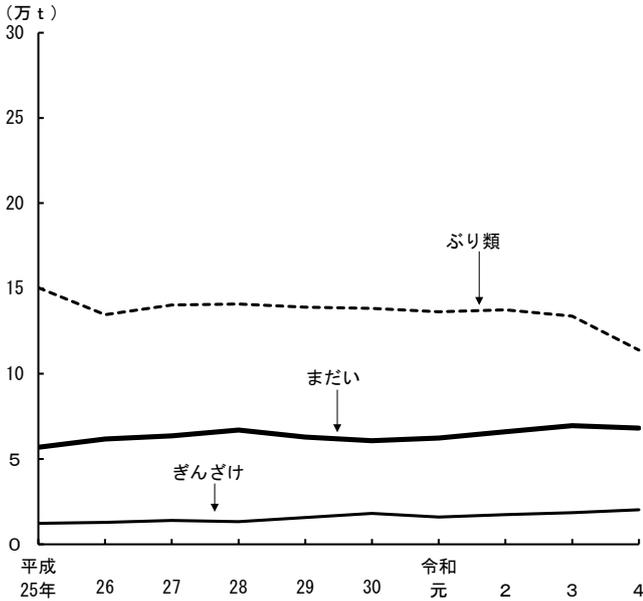
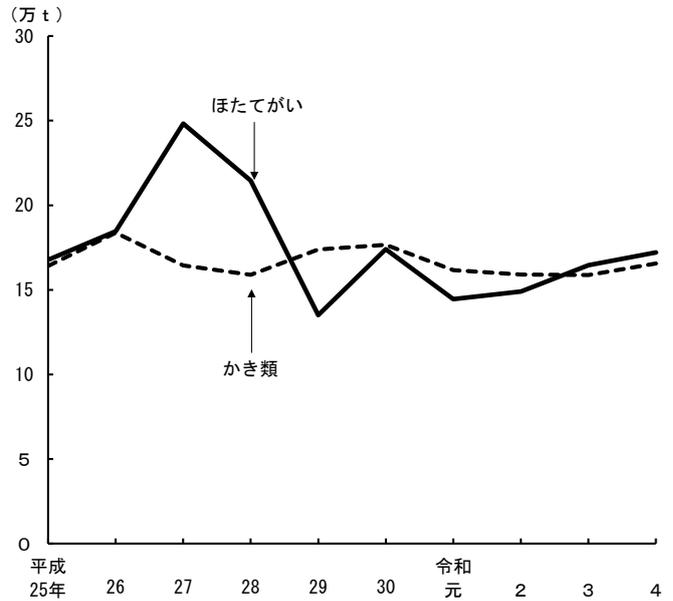


図7 海面養殖業主要魚種別収穫量の推移（貝類）



(3) 海藻類

収穫量は32万5,037 tで、前年に比べ1万807 t（3.2%）減少した。

ア のり類（生重量）

収穫量は23万2,490 tで、前年に比べ4,765 t（2.0%）減少した。

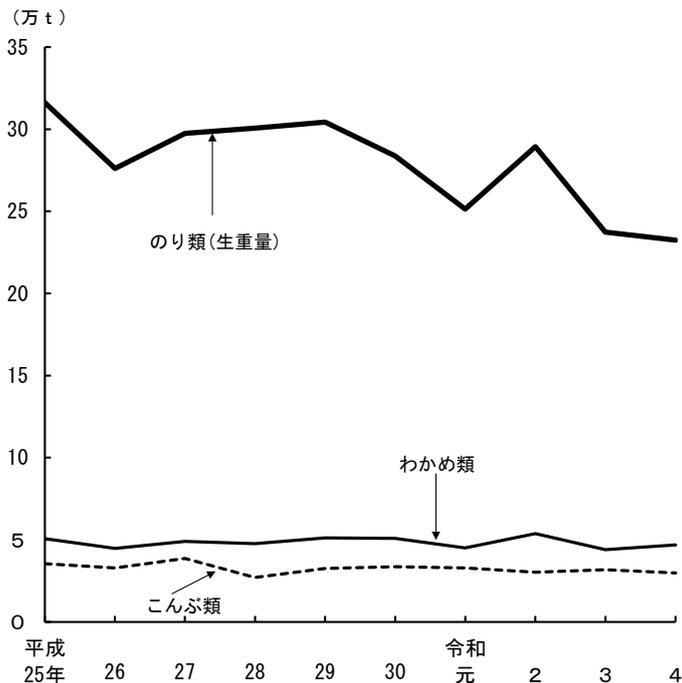
イ わかめ類

収穫量は4万6,929 tで、前年に比べ2,957 t（6.7%）増加した。
これは、宮城県等で増加したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は2万9,780 tで、前年に比べ1,911 t（6.0%）減少した。
これは、北海道等で減少したためである。

図8 海面養殖業主要魚種別収穫量の推移（海藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要113河川及び24湖沼）の漁獲量は2万2,612 tで、前年に比べ3,708 t（19.6%）増加した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は12,782 tで、前年に比べ4,475 t（53.9%）増加した。

また、湖沼における漁獲量は9,830 tで、前年に比べ766 t（7.2%）減少した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア さけ類

漁獲量は9,694 tで、前年に比べ4,821 t（98.9%）増加した。

これは、北海道、山形県等で増加したためである。

イ しじみ

漁獲量は8,313 tで、前年に比べ688 t（7.6%）減少した。

これは、茨城県等で減少したためである。

ウ あゆ

漁獲量は1,776 tで、前年に比べ78 t（4.2%）減少した。

エ わかさぎ

漁獲量は675 tで、前年に比べ12 t（1.7%）減少した。

オ しらうお

漁獲量は320 tで、前年に比べ55 t（14.7%）減少した。

これは、青森県、秋田県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

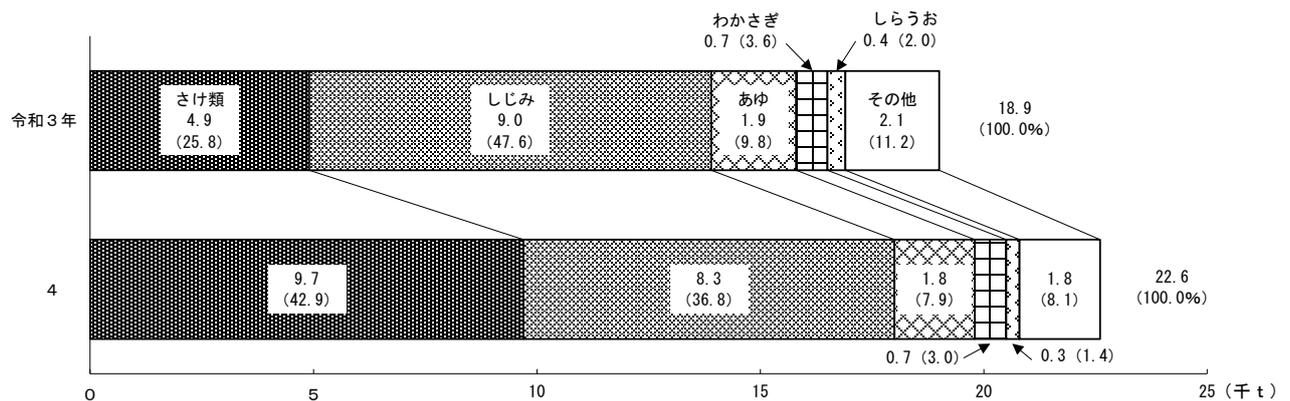
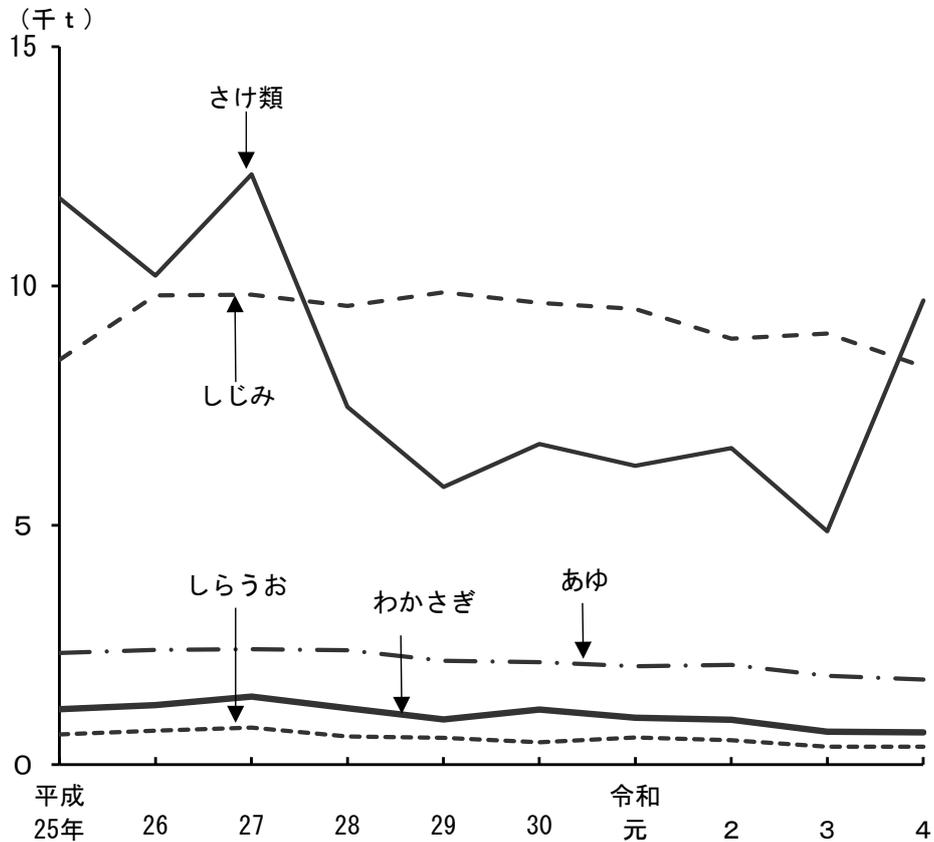


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は3万1,503 tで、前年に比べ1,351 t (4.1%) 減少した。

(1) うなぎ

収穫量は1万9,167 tで、前年に比べ1,506 t (7.3%) 減少した。

これは、愛知県等で減少したためである。

(2) にじます

収穫量は4,462 tで、前年に比べ301 t (7.2%) 増加した。

これは、岩手県等で増加したためである。

(3) あゆ

収穫量は3,683 tで、前年に比べ226 t (5.8%) 減少した。

これは、愛知県等で減少したためである。

(4) こい

収穫量は2,027 tで、前年に比べ37 t (1.8%) 減少した。

図11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

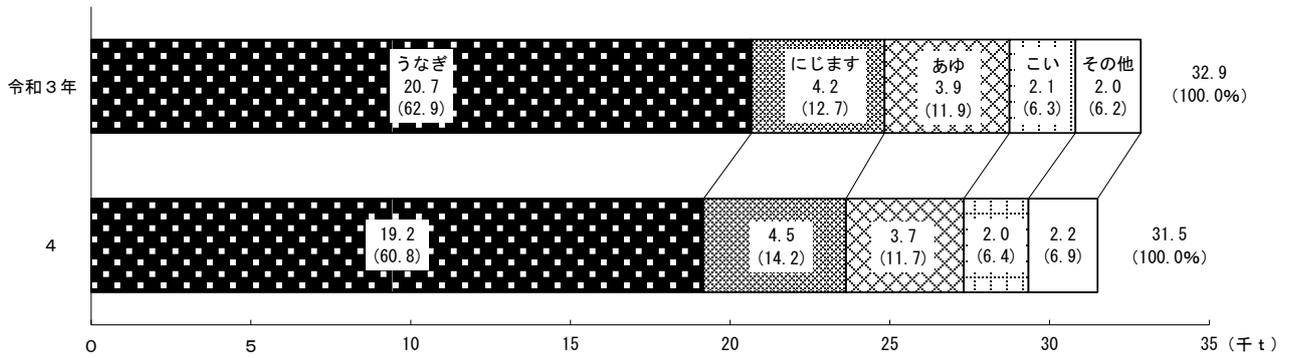
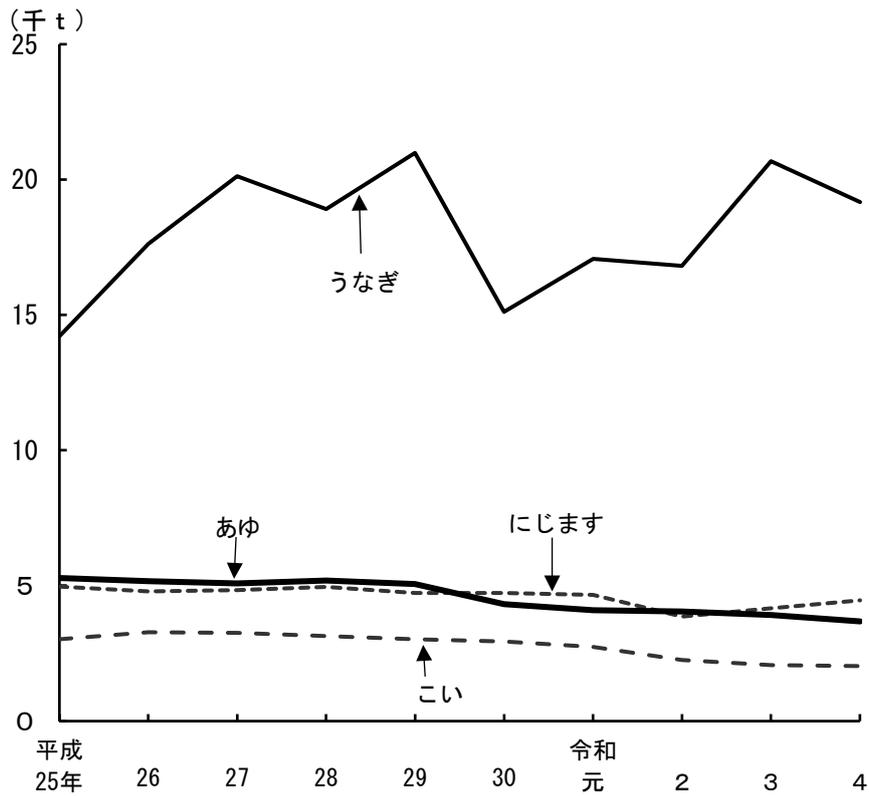


図12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



なお、観賞魚販売量について、にしきごいの販売量は243万511尾で、前年に比べ13万9,573尾(5.4%)減少した。

これは、新潟県等で減少したためである。